

水木村内山家史料 一

前書之趣見届ケ相違無之候ニ付我等印形指出シ、仍而如斯御座候、以上

1 宝曆三年（一七五三） 水木村兵衛門船引場書入金

子借用証文

2 安永二年（一七七三） 水木村弥七金子借用につき

乗船約定証文

3 安永五年（一七七六） 水木村彦衛門船引場売渡し

証文

4 安永五年（一七七六） 水木村直吉金子借用につき

乗船約定証文

所蔵 日立市郷土博物館

参照 水城古文書の会編『内山家近世文書』

1 宝曆三年（一七五三） 水木村兵衛門船引場書

入金子借用証文（水木内山家文書 状）

〔端裏書〕

□□□□

相渡申一札手形之事

但小粒也

一 金壹両壹分ハ

右者當御年具金ニ相詰り、我等持分之中舟上場半艘舞書人ニ致、右之金借用申処実正ニ御座候、若我等舟持候時分、右之金子返済仕候ハ、舟上場御帰シ可被下候、若又金子兼濟申候ハ、何年成共御構可被成候、為其印形仕如斯御座候、以上

宝曆三年

酉十二月廿八日

借り人

兵衛門 ㊦

請人加平太 ㊦

八郎衛門殿

舟庄や  
文次兵衛 ㊦

2 安永二年（一七七三） 水木村弥七金子借用に

つき乗船約定証文

（水木内山家文書 状）

〔端裏書〕

弥七

相渡申舟増手形事

一 金三分

右當御年貢御上納指詰り、巳暮方未ノ極月廿七日迄中式年貴殿鯉舟乗候筈ニ而右金子借用申処実正也、年之内脇合ニ舟ニ乗候ハ、相違被成候、若シ首尾能金子共相濟候ハ、相違被成間鋪候、為後日仍如件ニ御座候、以上

安永五年

巳十二月廿八日

かり人

弥七

請人

八郎衛門殿

前書之趣見届相違無之御座候ニ付我等印形、仍而為後日如件御座候、以上

舟庄や

文次兵衛

〔安永五年は申年、巳年は安永二年。内容から本史料の成立は安永二年と考える〕

3 安永五年（一七七六） 水木村彦衛門船引場壳

渡証文 （水木内山家文書 状）

〔端裏書〕

彦衛門〕

相渡申永代船引場手形之事

文金壹両貳分

但小粒

右當御年貢御上納筋指詰り、我等持分之中野船引場壳

盤半前之内半分、代金壹両貳分永代ニ賣渡シ申所実正

ニ御坐候、右引帰ニ付何より違乱申者有之故障出来候

供立合之我等何迄も罷出引請埒明可申上候、為其立合

之我等印形仍如件、如此御座候、以上

安永五年

申十一月

賣主

彦衛門 ㊤

立合

与次兵衛 ㊤

八郎衛門殿

前書之趣見届少も相違無御坐候ニ付印形仍如件、如此御座候、已上

舟庄屋

三郎左衛門 ㊤

4 安永五年（一七七六） 水木村直吉金子借用に

つき乗船約定証文

（水木内山家文書 状）

〔端裏書〕

直吉 舟増〕

相渡申舟増手形事

一 金壹両貳分

右當御年貢御上納辻指詰り、當申暮々中式年戌十二月

廿七日迄貴殿鰯舟ニ乗候筈ニ而右之金子借用候所実正

ニ御座候、年過首尾克乗納候候ハ、何之舟ニのり合候

共、少も滞り無之候、仍此証文如件如此御座候、已上

安永五年

申十二月廿七日

のり人

直吉 ㊤

立合

源介 ㊤

八郎衛門殿

前書通見届相違無之趣仍印形如此御坐候、以上

舟庄屋

三郎左衛門 ㊤